

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502739		
法人名	医療法人 社団 天翠会		
事業所名	グループホーム 高野 (西棟)		
所在地	福岡県北九州市小倉南区高野5丁目11-1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果確定日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>里山の風景に溶け込む恵まれた環境の中で、畑を耕し 新鮮な野菜が食卓に上ります。研修を積んだ職員が入居者1人ひとりの思いを理解し、思い・願いの実現に向けて ご家族、地域の方々、ボランティアの方々の協力を得ながら ホームでの生活を安心して楽しんで頂ける様 日々努力しております。「何気ない笑顔」がグループホーム高野では あふれています。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成22年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心して、楽しく生活出来るグループホーム」を目指し「安心・楽しい」の言葉の意味をしっかりと職員が理解できる研修の場を設け、実践する環境を作っている。又、朝の申し送り時に理念を唱和している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事への参加を頂いたり、夏祭り前には 町内38軒全て挨拶に伺い、高野に対する思いなど 生のご意見を聞く機会を持っている。町内清掃の参加や地域行事への出席、日々の散歩時など気軽に声を掛け合っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア(近隣活動ボラ、学生ボラ、周望学舎、傾聴、その他)来所時に 認知症への理解を深める学習やオリエンテーションを実施している。校区での福祉体験学習でのサポートなどで協力している。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーとの意見交換や運営に対する評価なども 活発な声が聴く事が出来る。特に、事故やヒヤリハットの報告に対し、現行のデータ収集ではなく システム化した方法などをご家族より指導して頂き改善出来た。他事業所の運営推進会議に参加させて頂いたり、来て頂いたりして情報交換し 反映出来た。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会を通じて 市・介護保険課との対話会や 小倉南区生活支援課主催のグループホーム交流会に参加し 情報交換の場としている。市・区・社協より 小学生福祉体験学習サポートやボランティア受け入れ要請にも協力している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市やグループホーム協議会開催の研修会には必ず参加し 内容を持ち帰り、ホーム内にて検討会を開き、職員全員が身体拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加は勿論だが 常に全職員の目の届く所に 高齢者虐待防止への対応と養護者支援のマニュアルを設置している。研修参加後は 職場に持ち帰り、社内研修の場で全職員周知しケアに役立てている。虐待はありません。	

福岡県 グループホーム 高野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修に参加し、研修内容を持ち帰り、職員研修の場で職員全員が再度学習している。ホーム利用者の中に、成年後見制度利用の方がおられ、実際に活用を体験している。又、ご家族より問い合わせがあり、成年後見制度利用へ繋がった方がおられた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず文書を作成し、利用者様やご家族が充分理解して頂けるように、時間をかけて説明している。又、文書は2部作成し、1部はご家族へお渡ししている。質問にはいつでも丁寧に対応するよう心掛けている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、リーダー、その他の職員全員が日々のケアの中で利用者様が話し易い環境作りに配慮し、声掛けを怠らないようにしている。E ホール前のご意見箱の設置や、毎月ご家庭へご意見を頂く為の連絡表を手渡している。相談員来所時は状況を伝え 連携を密に対応している。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の社内研修や、職員カンファの場で意見交換を行っている。全員で話し合い改善できる事は改善している。職員の気付き等よい提案は、積極的に取り入れる。(例)職員の改革や、感染防止の提案、体調管理への提案		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ホームでの様々な事柄を把握し、職場環境の充実に努めている。今年度は 研修参加への支援や、ホーム内の高額な備品の調達などの実績があり、働きやすい職場となった。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別などで、排除はしていない。現在20代～60代まで幅広い年齢層である。個々の職員のスキルアップを目指し、資格取得、研修受講を啓発している。今年度は 介護福祉士1名合格にて職員17名中、11名が介護福祉士となり、また、ケアマネージャー3名合格し、ホーム全体のケアの質や仕事に対する意欲が上昇した。個々の職員の資質や意見を反映できるよう管理者は努力している。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政や、グループホーム協議会の研修を促している。今年度は、人権の約束事運動「ほっとハート北九州」推進協議会の活動を知り、パンフレットや冊子などを職員の目の届く、手の届く所に設置し啓発している。		

福岡県 グループホーム 高野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々の性格や能力を把握し、更なる能力アップに向けて課題を与える事により、向上心に繋げている。法人外の研修実績は高く、法人内研修においても年間5回、専門講師を招き、活発な研修となっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が提案した他事業所間職員交換研修が定着し、6事業所が行い業務に反映した。又、9事業所と情報交換勉強会を立ち上げ、会場として当ホームを活用している。質の向上へ向け活発な意見交換がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい雰囲気や、環境作りをしている。又、ご本人より聴けない場合は、ご家族様や担当ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、ケースワーカーなどより情報を得ている。高野独自のアセスメント表を活用し進めて行く。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの電話での問い合わせや、見学来所時は丁寧に対応し、ご家族の困り事や訴えを聴くように努めている。又、ご家族の思いを表出し易いような問いかけや雰囲気を心掛け作っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の訴えをよく伺い、状況の確認をしっかりと行う。グループホームでの生活がご本人に適しておられるか見極め、そうでない場合は、他のサービスをご紹介している。(小規模多機能など)		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が集団で行動・活動する事が多く、その場合もお1人おひとりの状況を把握し、他者とのトラブルが発生しない様声を掛けながら、職員と共に出来る事をして頂く。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	高野だよりなどで状況を報告し、行事などへの参加を促している。最近では 毎月のバイキング時への家族ボランティア参加が増えた。家族交流会では ご家族、利用者、職員が一緒に楽しく交流が持てるように努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅より、ご本人の馴染みの品を必ず持参して頂いている。家具、仏壇、植木の搬入や、読み慣れた本や、新聞の継続、行きつけのスーパーへの外出なども行っている。知人、友人の来訪もある。携帯電話の持ち込みもある。洋室に畳を敷き、和室に変更などもしている。自宅への訪問希望には職員が付き添い実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	毎日の申し送り時に利用者様個別に状況報告が あり、全職員に伝わるようにしている。その中で 問題点があれば、注意深く状況判断し、関係がス ムーズに行くよう配慮している。困難事例が発生 した場合は、職員カンファを開き、問題解決へ繋 いでいる。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設入居などでご退居された場合は、 時間の取れる限り継続して伺う様にしている。 又、遠方のご家族へは、その様子を連絡するよう にしている。現時点で3名の方がおられる。その 他、退居後の様子を知らせて下さる。電話や絵手 紙などが頻回にある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者様の生活歴をセンター方式などの活用 や、ご家族の情報、日常の会話の中で思いや行 動の見極めを行い、その都度希望や意向に添え る様努力している。困難な場合は、ご家族やボラ ンティアなどの協力を得て実現できるようにして いる。自宅への帰宅願望を実現させた方(2名)		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	センター方式の活用を実施している。ご家族の方 にも協力して頂き、ご本人の生活歴を振り返る良 い機会となっている。職員との共同作業となり、 詳しくご本人への理解となっている。結果をモニタ リングやケアプランに反映している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の様子を毎日申し送っている。日々の 生活の中で気付いた事や、ご本人の思いや、出 来る事を情報共有ノートに記載し、口頭伝達だけ でなく記録で残している。職員の情報共有に役立 ち、モニタリングに活用し、総合的にその方の生 活の指針にしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	担当者会議を開き、本人、家族、医療関係者、職 員の総合的な意見交換を行い「ご本人がどの様 な生活を望んでいるのか？」を伺い、気づきやご本 人の状況を見極めて、ご本人主体の介護計画を 作成している。モニタリングを実施し、課題実現の 確認を行い、結果は全職員が周知する。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日中夜間と介護計画に基づいたケアを行い、実 施したケアの記録を残している。記録は職員全員 で情報を共有し、ケアへ繋げている。モニタリン グにより、必要があれば見直しをしている。		

福岡県 グループホーム 高野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの生活の中で生じる利用者個々のニーズや状況に応じて、併設されたデイサービスの協力や法人内の医療との連携、様々な特色を持つボランティアの協力などを活用し、出来る限り情報を集め、ニーズの実現に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議メンバーに校区社協会長や、民生委員会長、町内会長、医師などがおられ、様々な情報が伝えられる。情報にて、実現可能な行事や協力などは利用者と共に参加している。消防署との連携も 訓練や救命救急研修を通じて密である。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1度かかりつけ医が往診に来所し、利用者様ご家族様より安心を頂いている。少しでも異常の見られる時はすぐに受診し、相談し易い関係を築いている。精神科、内科、外科、耳鼻科、肛門科、歯科など協力医が多い。ご家族付添いが困難な場合はホームで対応している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、週1回と往診時に非常勤にて看護師が勤務しており、ご利用者の健康管理やかかりつけ医への連絡もスムーズに行われている。医療的な疑問や急変時の対応なども相談できる。毎月ホーム内で、医療に関する研修会を行い、職員の医療知識が向上した。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、ホームでの介護サマリーを作成し入院までの状況を伝えている。様子伺いを頻繁にし、状況把握に努め、医療連携による看護師の協力も得て、早期退院に向けて情報交換をしている。又、退院時は病院にて担当者会議を経て退院を迎える。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、マニュアルに添って行動する。日頃のご家族とのカンファレンスの中で、終末期の話題がでる事もあり 丁寧にご家族の気持ちを受け止めている。マニュアルに添って説明を行っている。かかりつけ医とも重度化終末期について情報を共有している。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は急患手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者個々に急変時の対応を職員全員で周知徹底している。マニュアルの活用や看護師の指導、救命救急隊の指導も定期的に行っている。又ご家族より、入居時に文書にて、急変時の対応や指定医などの希望も聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の緊急マニュアルを作成し、研修にて職員に周知徹底している。災害時には町内の消防団との連携ができています。非常時に備え、食料、薬品、毛布、その他など備蓄している。避難訓練は年3回行っている。(夜間想定含む)		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修により、一人ひとりの職員へ意識づけを行い、その方の尊厳を大切にするように配慮指導している。記録などは、一括保管し、持ち出し禁止や業務上知り得た情報の口外を禁じている。(誓約書の提出)来所するボランティアにも全て誓約書を書いて頂いている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の情報、しぐさ、身振り、表情、言動から速やかに要望を察知するよう心掛けています。又、本人にわかりやすい手段で丁寧に説明し、自分で決める事が出来るよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のホームでの時間の流れはあるが、西棟は、皆で行動する事が多く自己の要望を伝える事が苦手な方が多いので、職員が察知して、ゆっくりと本人の意思、要望の確認をしながら支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのヘアスタイルにしご自分らしさを演出している。ご自分で日常着や外出着を選んで頂くが苦手な方へは声掛け支援をしている。行事、外出時には自らお化粧されたり、利用者同士が楽しくお互いのおしゃれを評価する場面も見られる。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に配慮したメニューのもと、利用者と共に調理や片付けを行っている。メニューには利用者のご意見も取り入れている。毎月開催のバイキング「高野レストラン」は楽しく食欲も上々で笑顔満開である。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状況を看護師、職員と話し合い その方に必要な摂取量を見極めていく。その日に摂取した量は、記録として残し健康で生活出来る様に支援している。主菜副菜はその方に合った形態にしたり、水分確保の為 その方の習慣や好みに合わせている。食事摂取が困難な場合は、かかりつけ医と相談の下補助食品も使用している。		

福岡県 グループホーム 高野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの促しと支援を行っている。3食の内 いずれかの時に歯間ブラシによるケアも行い、口腔内の異常の早期発見にも繋がっている。又、清潔を保つ為 歯ブラシ・コップ・義歯の消毒も欠かさず行っている。歯科かかりつけ医との連携も取れて 相談が出来ている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表を作成し、失敗の多い方への対応に参考にしたり 健康チェックをしている。トイレの場所がわからなくなったり、排泄そのものの動作が出来ない方への支援や、失敗の多い方へは、パターン表を活用し、トイレ誘導を行い支援している。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	何故、便秘になるのか？原因を職員皆で考え工夫出来る事は行っている。運動、食事量、形態、水分量、服薬などに考慮して支援している。医療とも連携を取り、かかりつけ医の指導も頂いている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴時間帯は決まっているが、ご本人が希望する時間があれば要望に添う様にしている。ご自宅での入浴に近づける様に 入浴用品は使い慣れた品を活用して頂いている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員全員が その方の生活習慣や状況を把握しているのので その方の思いのままに自由にして頂いている。しかし、状況によっては、職員が休息や、入眠の声かけが必要な場合もある。傾眠の方へは声かけを行い、昼夜逆転が生じないように配慮している。常に清潔な寝具を用いて音や、光、室温にも配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が 服薬に関しては理解している。又、変更の都度 申し送りノートにて情報を共有し、変更後の状態も記録に残し検討している。ご利用者の服薬一覧表を作成して掲示している。服薬時は お1人おひとり服薬確認実施し 記録している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴をセンター方式やご家族よりの情報で知る事により ホームの中で活躍して頂けるシーンを数多く作る様に心掛けている。歩行見守りの方が多く、常に職員と共に行動する事が多い。その分、職員との会話のキャッチボール頻回で、賑やかである。昔話や、歌を唄って楽しむ事が多い。単調にならないように支援している。		

福岡県 グループホーム 高野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のテラスやホーム周辺への外出は日常的に出かけている。高野農園での農作業や草花の水やりにも戸外へ出る機会が多い。ご本人希望の買物や外食、自宅訪問、ご家族との小旅行や食事会、墓参りへの外出など、機会が多い。森フォーラムや地域でのふれあい行事にも参加している。ご本人の希望を家族へ伝える支援も行っている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で、2名所持されているが、ご家族と相談し、買物時は自由に使えるように支援している。お金の大切さは、利用者より教えられる事も多く、気兼ねなく所持したり、使える様、職員は支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご本人の希望があれば 対応している。手紙については 時候の挨拶など定期的に手作りハガキ等を作成し、発送している。ハガキ作成や文書などは職員が支援する事もある。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと昔を思い出して頂けるような、掲示物や、雰囲気作りを心掛けている。月替わりで壁面など、活動性が上がる様な、リハビリ用具なども揃えている。動線や段差に配慮し、使い易く、清潔な共有スペースである。温度計を設置し室温に注意している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスでの散歩、中庭でのガーデニング、畑での農作業や、趣味を生かした塗り絵や学習レクなど、皆さん自由に様々な場所で行っている。西・東が1つのフロアで繋がっているため、お互いが垣根なく居場所を見付けられる。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、馴染みの品や使い慣れた品を持ち込んで頂いている。冷蔵庫や大型家具、仏壇等も持参されている。新聞も個人で契約されている。ビールなどの嗜好品も提供している。ご家族の写真や、行事の写真などを掲示し、心とらくように配慮している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から、全職員がその方の残存能力やニーズを理解して 出来る事、意欲のある事はして頂く様に声掛けしている。混乱している時はゆっくりと説明し、手順をおって無理なく失敗の無い様に支援している。		